注３ **大学番号：私立304**

認可

［令和２年度設置］

計画の区分： 学部の設置

注１

第一薬科大学　看護学部

注２

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人都築学園
令和２年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名　看護学部事務室職員（カンゴガクブジムシツショクイン）　管田靖子（カンダヤスコ）

電話番号　０９２-５５９-７３３１

（夜間）　０９２-５４１-０１６１

ＦＡＸ　０９２-５５９-７３３２

ｅ－mail　ichiyaku-kango@daiichi-cps.ac.

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和２年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

１　調査対象大学等の概要等

（１）設　置　者

学校法人都築学園

（２）大　学　名

第一薬科大学

（３）調査対象大学等の位置

〒８１５－８５１１
福岡県福岡市南区玉川町２２番１号

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（４）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ ツヅキ キミコ ） 都築　仁子 （平成19年11月）		
学　　長	（ ツヅキ キミコ ） 都築　仁子 （平成19年11月）		
学長代理	（ ヨシタケ タケト ） 吉武　毅人 （令和元年5月）		
副 学 長	（ サクラダ ツカサ ） 櫻田　司 （平成27年3月）		
学 部 長	（ ヒラタ　ノブコ ） 平田　伸子 （令和2年4月）		
学科長等	（ ヒラタ　ノブコ ） 平田　伸子 （令和2年4月）		

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）令和元年度に報告済の内容　→（元）
令和２年度に報告する内容　→（２）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
・　様式は、平成２８年度開設の４年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和２年度までの５年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が４年以下の場合には欄を削除し、５年以上の場合には、欄を設けてください。）
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備　考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	年 4	人 80	年次 人 －	人 320	

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		令和２年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
Ａ　入学定員	人 （　） [　]	人 [　]	人 （　） [　]	人 [　]	人 （　） [　]	人 [　]	人 （　） [　]	人 [　]	80人 （－） [－]	人 [－]	0.97　倍	－　倍	
志願者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	198 （－） [－]	－ （－） [－]			
受験者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	191 （－） [－]	－ （－） [－]			
合格者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	163 （－） [－]	－ （－） [－]			
Ｂ　入学者数	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	（　） [　]	78 （－） [－]	－ （－） [－]			
入学定員超過率 Ｂ／Ａ									0.97				

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　（　）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、((　))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和２年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学　年	平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		令和２年度		備　　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	78 [－] －	－ [－] －	
２年次			[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	
３年次					[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	
４年次							[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	[　　] (　　)	
計	[　　] (　　)		[　　] (　　)		[　　] (　　)		[　　] (　　)		78 [－] (－)		

・令和２年５月１日　公表

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。

・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。

・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。

・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。

・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	退学者数	うち留学生数	主な退学理由 （留学生の理由は[ ]書き）
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	78 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合　計		0 人		0 人	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{}\ \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{}\ \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{}\ \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{}\ \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{78} = \boxed{0}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

2　授業科目の概要

＜看護学部　看護学科＞

（1）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			6					
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	－	3	6	0	6	0	0	0	0	8
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								4
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	－	3	3	0	0	0	0	0	0	9
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						6
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							2
	小計(7科目)	－	2	4	2	0	0	0	0	0	15
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1前	1								2
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ	1前		1							1
	フランス語Ⅱ	1後		1							1
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	－	3	6	0	0	0	0	0	0	10
形態機能学科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	－	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾病基礎理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2			1					1
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								3
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	－	12	3	0	1	0	0	0	0	14

【令和２年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
人文科学科目	心理学	1前	1								1
	文章表現論	1前	1								1
	倫理学	1前		1							1
	看護倫理	1前	1			3					3
	生命・医療倫理学	1後		1							1
	文学Ⅰ	1前		1							1
	文学Ⅱ	1後		1							1
	哲学Ⅰ	1前		1							1
	哲学Ⅱ	1後		1							1
	小計(9科目)	－	3	6	0	3	0	0	0	0	11
社会科学科目	医療コミュニケーション学	2前	1								1
	薬学への招待	1前	1								5
	経済学Ⅰ	1前		1							1
	経済学Ⅱ	1後		1							1
	ジェンダー論	1後	1								1
	日本国憲法	1後		1							1
	小計(6科目)	－	3	3	0	0	0	0	0	0	10
自然科学科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1								1
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								1
	看護学生のための生物・化学	1前			1						5
	看護学生のための数学・物理	1前			1						3
	スポーツⅠ	1前		1							1
	スポーツⅡ	1後		1							1
	医療統計学	2後		2							2
	小計(7科目)	－	2	4	2	0	0	0	0	0	14
外国語科目	英語	1前	1								1
	英会話	1後	1								1
	中国語Ⅰ	1前		1							1
	中国語Ⅱ	1後		1							1
	韓国語Ⅰ	1前		1							1
	韓国語Ⅱ	1後		1							1
	フランス語Ⅰ	1前		1							1
	フランス語Ⅱ	1後		1							1
	医療英語	3前	1								1
	小計(9科目)	－	3	6	0	0	0	0	0	0	9
形態機能学科目	形態機能学Ⅰ	1前	2								1
	形態機能学Ⅱ	1後	2								1
	生化学	1後	2								4
	栄養学	2後	2								2
	小計(4科目)	－	8	0	0	0	0	0	0	0	8
疾病基礎理論科目	病理学	2前	2								1
	微生物学	2前	2								2
	薬理学	2前	2								2
	臨床薬理学	2後	2								2
	臨床医学論Ⅰ(成人・高齢者)	2後	2			1					1
	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)	2後	2								3
	漢方・民間薬概論	1後		1							1
	救急医療概論	3前		1							1
	ターミナルケア論(エンドオブライフケア論)	3前		1							1
	小計(9科目)	－	12	3	0	1	0	0	0	0	14

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
地域基盤教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2前	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							1
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	－	6	9	0	6	2	1	0	0	7
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		4	3	2	
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		3	3	2	
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	1					4	3	2	
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2後	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	2	
	小計(8科目)	－	13	0	0	7	6	46	36	16	0
成人看護学	成人看護学概論	2後	2			1					
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	－	12	0	0	5	4	8	4	6	0
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			2	2	2	1	2	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	－	8	0	0	5	4	5	1	3	0
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	－	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			1		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	－	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1		1			
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	－	6	0	0	4	0	4	2	0	0
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2後	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	－	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	－	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域横断展開科目	国際看護学	2後	1			7					
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	－	5	0	0	28	7	19	13	4	4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
地域基盤教育科目	地域包括ケアシステム論	1通	2			1	1				1
	地域保健	2前	2			2	1	1			
	家族社会学	2前		2							1
	臨床心理学	2前		2							1
	疫学	2後		2							1
	公衆衛生学	3前	2			1					1
	健康政策論	3前		2		2					
	健康管理学	3前		1							2
	小計(8科目)	－	6	9	0	6	2	1	0	0	7
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1		**3**	3	**1**	**1**
	看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)	1前	2			1		**3**	3	**1**	**1**
	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)	1後	2			1		**3**	3	**1**	**1**
	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)	1後	2			1		**2**	3	**1**	**1**
	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	1					4	3	2	
	看護援助技術Ⅴ(看護過程)	2後	1			1	2	9	7	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1	2	**6**	**4**	**1**	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	2	9	7	2	
	小計(8科目)	－	13	0	0	7	6	**39**	**33**	**11**	**4**
成人看護学	成人看護学概論	2後	2			1					
	成人看護援助論Ⅰ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2			1	1	2	1	2	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3			1	1	2	1	1	
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	2	1	1	
	小計(5科目)	－	12	0	0	5	4	8	4	6	0
高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	2			1		1			
	高齢者看護援助論	3前	2			1	1	1			
	高齢者看護学実習Ⅰ	1後	1			2	**1**	2	**2**	**1**	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1	1		1	
	小計(4科目)	－	8	0	0	5	**3**	5	**2**	**2**	0
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1			
	小児看護援助論	3前	2			1		1	1	1	
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1	1	
	小計(3科目)	－	6	0	0	3	0	3	2	2	0
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			1		1			
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1			1		2	1	1	
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2			1		2	1	1	
	母性看護学実習	3後	2			1		2	1		
	小計(4科目)	－	7	0	0	4	0	7	3	2	0
精神看護学	精神看護学概論	2後	2			1		1			
	メンタルヘルス論	1前	1			1					**1**
	精神看護援助論	3前	1			1		1	1		
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1		
	小計(4科目)	－	6	0	0	4	0	**3**	2	0	**1**
地域看護学	在宅看護概論	2後	2			1					
	在宅看護援助論	3前	1			1			1		
	公衆衛生看護学概論	2後	2			1					
	家族看護論	3前	1			1					
	在宅看護論実習	3後	2			2	1		1		
	小計(5科目)	－	8	0	0	6	1	0	2	0	0
統合実習	統合実習	4前	2			8	3	9	7	2	
	小計(1科目)	－	2	0	0	8	3	9	7	2	0
領域横断展開科目	国際看護学	2後	1			7					
	がん看護学	3前	1			3	1	1			
	チーム医療	4後	1			9	3	9	6	2	2
	総合看護学演習	4後	2			9	3	9	7	2	2
	小計(4科目)	－	5	0	0	28	7	19	13	4	4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
キャリア開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			9	3	9	7	2	
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2			
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	19	6	20	14	4	0
看護学研究科目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	7	5	2	
	看護学研究Ⅱ	2後	1			9	3	7	5	2	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	20	9	21	15	6	0
保健師教育科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	4前		2		1					
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		2		1					
	公衆衛生看護援助方法論	4前		2		1	1				
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1					
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1				
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0
助産師教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1			
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1	
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1	
	助産管理	4前		1		1					
	助産学実習	4前		9		1		2	1		
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1
合計(109科目)		－	112	65	2	134	44	155	104	50	76

卒業要件及び履修方法

看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。

保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。

助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。

(履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
キャリア開発科目	スタディスキルセミナー	1前	1			**6**	3	**6**	**4**	**1**	**1**
	看護管理・リーダーシップ論	4前	1			1		2			
	キャリアデザインセミナー	4通	2			9	3	9	7	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	**16**	6	**17**	**11**	**3**	**1**
看護学研究科目	看護学研究Ⅰ	1通	1			2	3	**4**	**3**	**1**	**1**
	看護学研究Ⅱ	2後	1			9	3	7	5	2	
	看護学研究Ⅲ	4通	2			9	3	7	5	2	
	小計(3科目)	－	4	0	0	20	9	**18**	**13**	**5**	**1**
保健師教育科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	4前		2		1					
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		2		1					
	公衆衛生看護援助方法論	4前		2		1	1				
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1					
	公衆衛生看護学実習	4前		5		1	1				
	小計(5科目)	－	0	13	0	5	2	0	0	0	0
助産師教育科目	基礎助産学	3後		2		1		1			
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅱ(産科手術・救急助産)	3後		2				1		1	1
	助産診断・技術学Ⅲ(分娩介助法)	3後		2		1		2	1	1	
	助産診断・技術学Ⅳ(産褥期・新生児期・乳幼児期)	3後		1		1		2	1	1	
	周産期健康教育論	3後		2		1		2	1	1	
	助産管理	4前		1		1					
	助産学実習	4前		9		1		2	1		
	小計(8科目)	－	0	21	0	7	0	12	5	5	1
合計(109科目)		－	112	65	2	**128**	**43**	**141**	**97**	**42**	**85**

卒業要件及び履修方法

看護師を希望する者は、必修科目112単位(教養・基礎分野より11単位、専門支持分野より26単位、基礎看護学分野より13単位、専門実践分野より39単位、看護統合分野より23単位)、選択科目12単位(人文科学科目より2単位、社会科学科目より1単位、自然科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位、地域基盤教育科目より4単位)を履修し、合計124単位以上を修得していること。但し自由科目については卒業要件に含まない。

保健師国家試験受験資格を希望する者は、看護師必修科目112単位に加え、保健師教育科目の全科目13単位、教養・基礎分野より5単位(日本国憲法、スポーツⅠ・Ⅱ、医療統計学)、専門支持分野より5単位(疫学、健康政策論、健康管理学)及び選択科目5単位(人文科学科目より2単位、外国語科目より2単位、疾病基礎理論科目より1単位)を履修し、合計140単位以上を修得していること。

助産師国家試験受験資格を希望する者は、看護師の卒業要件124単位に加え、助産師教育科目の全科目21単位を履修し、合計145単位以上を修得していること。

(履修科目の登録の上限:年間48単位、但し自由科目は含まない。)

（注）
- 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
- 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- １ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
- 不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）
- 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【令和２年度】

・荒井教授就任辞退により、安藤教授に変更。令和元年10月AC教員審査済み。
・尾田助教就任辞退により、竹井助教に変更。令和元年12月AC教員審査済み。
・西田助教就任辞退により、小川助教に変更。令和元年12月AC教員審査済み。
・認可時の専任教員の配置に令和３年度着任予定の教員が含まれているため、今年度のみ「看護倫理」の専任教員等の配置を「教授６」から「教授３、兼任３」に変更。
・兼担教員の担当部分を変更したため、「薬学への招待」の配置を「兼担４」から「兼担５」に変更。
・兼担教員のうち１名が退職したため、「看護学生のための生物・化学」の配置を「兼担６」から「兼担５」に変更。
・兼担教員のうち１名が退職１名が辞退した、「英会話」の配置を「兼担２」から「兼任１」に変更。
・兼任教員の都合により、「英会話」の配当年次を「１前」から「１後」に変更。
・村井講師就任辞退。後任未定であるが、令和２年９月から専任教員採用予定で公募中。
・専任教員の就任辞退および助手１名が採用に至らなかったため、「看護学概論」の配置を「講師４」から「講師３」、「助手２」から「助手１」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手１名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）」の配置を「講師４」から「講師３」、「助手２」から「助手１」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手１名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）」の配置を「講師４」から「講師３」、「助手２」から「助手１」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任教員の就任辞退および助手１名が採用に至らなかったため、「看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）」の配置を「講師３」から「講師２」、「助手２」から「助手１」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和３年度着任予定の教員が含まれていること、更には専任教員の就任辞退および助手１名が採用に至らなかったため、「基礎看護学実習Ⅰ」の配置を「講師９」から「講師６」、「助教７」から「助教４」、「助手２」から「助手１」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・補正申請時の教員審査で不可だった専任教員に代わり、別の職位の専任教員が担当すること、また助手１名が採用に至らなかったため、「高齢者看護学実習Ⅰ」の配置を「准教授２」から「准教授１」、「助教１」から「助教２」、「助手２」から「助手１」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和３年度着任予定の教員が含まれているため、「メンタルヘルス論」の配置を「講師１」から「講師０」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和３年度着任予定の教員が含まれているため、「スタディスキルセミナー」の配置を「教授９」から「教授６」、「講師９」から「講師６」、「助教７」から「助教４」に変更。また助手１名が採用に至らなかったため、「助手２」から「助手１」に変更。
・認可時の専任教員の配置に令和３年度着任予定の教員が含まれているため、「看護学研究Ⅰ」の配置を「講師７」から「講師４」、「助教５」から「助教３」、「兼任０」から「兼任１」に変更。また助手１名が採用に至らなかったため、「助手２」から「助手１」に変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
68 科目	39 科目	2 科目	109 科目	68 科目 [0]	39 科目 [0]	2 科目 [0]	109 科目 [0]	

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［　］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
・　専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
・　専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

（注）・　授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

（６） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{109} = 0\%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
（1）校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	17,474 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	17,474 ㎡	
	運動場用地	35,354 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,354 ㎡	
	小計	52,828 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	52,828 ㎡	
	その他	3,383 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,383 ㎡	
	合計	56,211 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	56,211 ㎡	
（2）校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	学校法人都築学園福岡第一高等学校と共用 高校の建物の一部を追加で使用することになったため変更が生じた。
		~~21,924~~ 22,122 ㎡ （~~21,924~~ 22,122㎡）	509 ㎡ （ 509 ㎡）	0 ㎡ （ 0 ㎡）	~~22,433~~ 22,631 ㎡ （~~22,433~~ 22,631㎡）	

（3）教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	28 室	1 室	14 室	4 室 （補助職員 1 人）	0 室 （補助職員 0 人）	講義室、実験実習室を含め、他学部と合同で使用するため、大学全体の数を計上

（4）専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	看護学部　看護学科	23 室	

（5）図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	看護学部	~~4,960~~ 5,094〔260〕 （~~4,960~~ 5,094〔260〕）	~~71~~ 72〔11〕 （~~71~~ 72〔11〕）	20〔－〕 （20〔－〕）	~~188~~ 189 （~~188~~ 189）	~~3,210~~ 4,644 （~~3,210~~ 4,638）	~~41~~ 16 （~~41~~ 16）	廃刊や取り扱いの中止などにより入手不可となったものを、同等品などで変更したことにより数値に変更が生じた。
	計	~~4,960~~ 5,094〔260〕 （~~4,960~~ 5,094〔260〕）	~~71~~ 72〔11〕 （~~71~~ 72〔11〕）	20〔－〕 （20〔－〕）	~~188~~ 189 （~~188~~ 189）	~~3,210~~ 4,644 （~~3,210~~ 4,638）	~~41~~ 16 （~~41~~ 16）	

（6）図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	1,233 ㎡	280	105,722	

（7）体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		備考
	2,808 ㎡	－	－	

（8）経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考
経費の見積り	教員１人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	~~28,318千円~~ 28,840千円	0千円	337千円	廃刊や取り扱いの中止などにより入手不可となったものを、同等品などで変更したことにより金額に変更が生じた。
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	~~223,586千円~~ 237,053千円	0千円	0千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,700千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	資産運用

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「（５）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和２年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（２）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	第一薬科大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
薬学部	6	173	－	1038	－	0.90	0.73	－	－	－	
薬学科	6	113	－	738	学士（薬学）	0.99	0.97	－	平成18	福岡県福岡市南区玉川町22-1	平成28年定員変更（△60）
漢方薬学科	6	60	－	300	学士（薬学）	0.68	0.30	－	平成28	同上	
看護学部	4	80	－	80	－	0.97	0.97	－	－	－	
看護学科	4	80	－	80	学士（看護学）	0.97	0.97	－	令和2	福岡県福岡市南区玉川町22-1	
大学全体	－	253	－	1118	－	－	－	－	－	－	

大学の名称	日本薬科大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
薬学部	－	350	－	1920	－	1.00	0.95	－	－	－	
薬学科	6	260	－	1560	学士（薬学）	1.00	0.90	－	平成23	埼玉県北足立郡伊奈町小室10281	
医療ビジネス薬科学科	4	90	－	360	学士（医療ビジネス薬学）	1.02	1.11	－	平成23	東京都文京区湯島3-15-1	
大学院	4	3	－	3	－	1.66	1.66	－	－	－	
薬学研究科薬学専攻	4	3	－	3	博士（薬学）	1.66	1.66	－	令和2	東京都文京区湯島3-15-1	
大学全体	－	353	－	1923	－	－	－	－	－	－	

大学の名称	神戸医療福祉大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
人間社会学部	4	400	－	1600	－	0.77	0.87	－			
社会福祉学科	4	120	－	630	学士（社会福祉学）	0.51	0.64	－	平成25	兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5	令和2年定員変更（△50）
健康スポーツコミュニケーション学科	4	150	－	450	学士（健康福祉学）	0.81	0.86	－	平成23	兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-6	令和2年定員変更（50）
経営福祉ビジネス学科	4	130	－	520	学士（社会福祉学）	1.06	1.09	－	平成21	大阪府大阪市天王寺区島が辻2-1-3	
大学全体	－	400	－	1600	－	－	－	－	－	－	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和２年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

５　教員組織の状況

＜看護学部　看護学科＞

（１）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 (学部長)	平田　伸子 (67) ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 母性看護学概論※ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 基礎助産学※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期） 周産期健康教育論※ 助産管理 助産学実習
専	教授	長家　智子 (63) ＜令和２年４月＞ 修士（教育学）※	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

【令和２年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 (学部長)	平田　伸子 (67) ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 母性看護学概論※ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 基礎助産学※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期） 周産期健康教育論※ 助産管理 助産学実習
専	教授	長家　智子 (63) ＜令和２年４月＞ 修士（教育学）※	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西地　令子 （60） ＜令和２年４月＞ 博士（人間環境学）	看護倫理※ 地域包括ケアシステム論※ 地域保健※ 公衆衛生学※ 健康政策論※ 公衆衛生看護学概論 家族看護論 在宅看護論実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ 公衆衛生看護援助方法論※ 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習
専	教授	立石　和子 （57） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	教授	吉武　毅人 （55） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※ 健康政策論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西地　令子 （60） ＜令和２年４月＞ 博士（人間環境学）	看護倫理※ 地域包括ケアシステム論※ 地域保健※ 公衆衛生学※ 健康政策論※ 公衆衛生看護学概論 家族看護論 在宅看護論実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ 公衆衛生看護援助方法論※ 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習
専	教授	立石　和子 （56） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	教授	吉武　毅人 （55） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者）※ 健康政策論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	中尾　久子 （65） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 高齢者看護学概論※ 高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	教授	濵田　裕子 （60） ＜令和３年４月＞ 博士（看護学）	看護倫理※ 小児看護学概論※ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	教授	荒井　春生 （57） ＜令和２年４月＞ 博士（保健福祉学）	看護倫理※ 精神看護学概論※ メンタルヘルス論※ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	中尾　久子 （64） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ 高齢者看護学概論※ 高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	教授	濵田　裕子 （59） ＜令和３年４月＞ 博士（看護学）	看護倫理※ 小児看護学概論※ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田　和子 （67） ＜令和２年４月＞ 修士（保健学）	地域保健※ 在宅看護概論 在宅看護援助論※ 在宅看護論実習 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	准教授	渡邊　美保 （38） ＜令和２年４月＞ 博士（看護学）	高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	准教授	園田　和子 （59） ＜令和２年４月＞ 博士（保健学）	地域包括ケアシステム論※ 地域保健※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護論実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 公衆衛生看護援助方法論※ 公衆衛生看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田　和子 （67） ＜令和２年４月＞ 修士（保健学）	地域保健※ 在宅看護概論 在宅看護援助論※ 在宅看護論実習 統合実習 国際看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	准教授	渡邊　美保 （38） ＜令和２年４月＞ 博士（看護学）	高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	准教授	園田　和子 （60） ＜令和２年４月＞ 博士（保健学）	地域包括ケアシステム論※ 地域保健※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護論実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 公衆衛生看護援助方法論※ 公衆衛生看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	中村　眞理子 （66） ＜令和２年４月＞ 修士（経済学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	講師	権藤　多栄 （60） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	中村　眞理子 （66） ＜令和２年４月＞ 修士（経済学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	講師	権藤　多栄 （60） ＜令和２年４月＞ **博士（看護学）**	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	村井　孝子 （45） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	講師	山口　今日子 （61） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	山口　今日子 （61） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	丸山　智子 （49） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー
専	講師	山本　弘恵 （53） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 高齢者看護学概論※ 高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	講師	小山　記代子 （56） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学概論※ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	丸山　智子 （50） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー
専	講師	山本　弘恵 （53） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 高齢者看護学概論※ 高齢者看護援助論※ 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー 看護管理・リーダーシップ論※ キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	講師	小山　記代子 （56） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学概論※ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	前原　敬子 (59) ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	地域保健※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学概論※ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 基礎助産学※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習
専	講師	川口　弥恵子 (52) ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	前原　敬子 (58) ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	地域保健※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学概論※ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 基礎助産学※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習
専	講師	川口　弥恵子 (52) ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	宮﨑　初 （46） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論※ メンタルヘルス論※ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	溝口　晶子 （53） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	宮﨑　初 （45） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論※ メンタルヘルス論※ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	溝口　晶子 （53） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	尾田　登志子 （54） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	井上　由美子 （46） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	井上　由美子 （46） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護援助論Ⅰ※ 成人看護援助論Ⅱ※ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	野田　優子 （39） ＜令和３年４月＞ 看護専門学校卒	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	日高　朱里 （35） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習
専	助教	栗原　はるか （40） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	野田　優子 （38） ＜令和３年４月＞ 看護専門学校卒	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護援助論※ 小児看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	日高　朱里 （34） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※ 母性看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※ 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）※ 助産診断・技術学Ⅲ（分娩介助法）※ 助産診断・技術学Ⅳ（産褥期・新生児期・乳幼児期）※ 周産期健康教育論※ 助産学実習
専	助教	栗原　はるか （39） ＜令和３年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	西田　志穂 （55） ＜令和３年４月＞ 修士（教育学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護援助論※ 在宅看護論実習 統合実習 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	安藤　満代 （58） ＜令和２年４月＞ 博士（文学）	高齢者看護学実習Ⅰ 看護倫理※ 精神看護学概論※ メンタルヘルスケア論※ 精神看護援助論※ 精神看護学実習 統合実習 国際看護学※ がん看護学※ チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
専	助教	竹井　千里 （58） ＜令和２年４月＞ 修士（アドミニストレーション）	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ 看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）※ 看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	櫻田　司 （70） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※ 形態機能学Ⅱ
兼担	教授	戸田　晶久 （64） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	薬学への招待※ 栄養学※
兼担	教授	門口　泰也 （53） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	教授	三嶋　基弘 （67） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※
兼担	教授	池谷　幸信 （70） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	小川　有希子 （49） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	看護援助技術Ⅴ（看護過程）※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ 在宅看護援助論 在宅看護論実習 統合実習 チーム医療※ 総合看護学演習※ スタディスキルセミナー キャリアデザインセミナー 看護学研究Ⅰ※ 看護学研究Ⅱ※ 看護学研究Ⅲ※
兼担	教授	櫻田　司 （70） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※
兼担	教授	戸田　晶久 （64） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	薬学への招待※ 栄養学※
兼担	教授	門口　泰也 （54） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	教授	三嶋　基弘 （67） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※
兼担	教授	池谷　幸信 （70） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	薬学への招待※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	窪田　敏夫 （49） ＜令和３年９月＞ 博士（薬学）	医療統計学※ 疫学 チーム医療※ 総合看護学演習※
兼担	教授	長田　茂宏 （53） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	教授	森内　宏志 （60） ＜令和２年４月＞ 薬学博士	英語 英会話 医療英語
兼担	教授	小山　進 （56） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	病理学 救急医療概論
兼担	教授	松原　大 （61） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	微生物学※
兼担	教授	有竹　浩介 （55） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	薬理学※
兼担	教授	飯塚　晃 （68） ＜令和２年９月＞ 薬学博士	臨床薬理学※ 漢方・民間薬概論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	窪田　敏夫 （48） ＜令和３年９月＞ 博士（薬学）	医療統計学※ 疫学 チーム医療※ 総合看護学演習※
兼担	教授	長田　茂宏 （53） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	教授	小山　進 （55） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	病理学 救急医療概論
兼担	教授	松原　大 （60） ＜令和３年４月＞ 博士（医学）	微生物学※
兼担	教授	有竹　浩介 （54） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	薬理学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	増田　寿伸 （65） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	教授	入倉　充 （64） ＜令和５年９月＞ 博士（薬学）	チーム医療※ 総合看護学演習※
兼担	教授	小松　生明 （53） ＜令和３年９月＞ 博士（農学）	臨床薬理学※
兼担	准教授	横山　さゆり （57） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	准教授	白谷　智宣 （52） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	准教授	田畠　健治 （49） ＜令和２年４月＞ 博士（工学）	看護学生のための数学・物理※
兼担	准教授	安川　圭司 （43） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための数学・物理※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	入倉　充 （61） ＜令和５年９月＞ 博士（薬学）	チーム医療※ 総合看護学演習※
兼担	教授	小松　生明 （51） ＜令和３年９月＞ 博士（農学）	臨床薬理学※
兼担	准教授	横山　さゆり （57） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	准教授	白谷　智宣 （52） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	准教授	田畠　健治 （49） ＜令和２年４月＞ 博士（工学）	看護学生のための数学・物理※
兼担	准教授	安川　圭司 （43） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための数学・物理※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	准教授	廣村　信 （48） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	准教授	小川　和加野 （51） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	微生物学※
兼担	准教授	Denise Adeline Epp （50） ＜令和２年４月＞ 博士（臨床薬学）	英会話
兼担	講師	古賀　和隆 （48） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	講師	清水　典史 （45） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ
兼担	講師	香川　正太 （41） ＜令和２年９月＞ 博士（臨床薬学）	生化学※ 健康管理学※
兼担	講師	小武家　優子 （50） ＜令和４年４月＞ 博士（医学）	公衆衛生学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	准教授	廣村　信 （47） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	准教授	小川　和加野 （50） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	微生物学※
兼担	講師	古賀　和隆 （48） ＜令和２年４月＞ 博士（薬学）	看護学生のための生物・化学※
兼担	講師	清水　典史 （45） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ
兼担	講師	香川　正太 （41） ＜令和２年９月＞ 博士（臨床薬学）	生化学※ 健康管理学※
兼担	講師	小武家　優子 （49） ＜令和４年４月＞ 博士（医学）	公衆衛生学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	講師	藤井　由希子 （40） ＜令和４年４月＞ 博士（社会健康医学）	健康管理学※
兼担	講師	跡部　秀之 （61） ＜令和２年４月＞ 理学士	看護学生のための生物・化学※
兼担	助教	井上　寛 （37） ＜令和２年４月＞ 博士（数理学）	看護学生のための数学・物理※ 医療統計学※
兼担	助教	岡﨑　裕之 （34） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	助教	古賀　貴之 （37） ＜令和３年９月＞ 博士（薬学）	栄養学※
兼担	助教	濵村　賢吾 （33） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	薬理学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	講師	藤井　由希子 （38） ＜令和４年４月＞ 博士（社会健康医学）	健康管理学※
兼担	講師	跡部　秀之 （61） ＜令和２年４月＞ 理学士	看護学生のための生物・化学※
兼担	助教	井上　寛 （37） ＜令和２年４月＞ 博士（数理学）	看護学生のための数学・物理※ 医療統計学※
兼担	助教	岡﨑　裕之 （33） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	生化学※
兼担	助教	古賀　貴之 （35） ＜令和３年９月＞ 博士（薬学）	栄養学※
兼担	助教	濵村　賢吾 （32） ＜令和３年４月＞ 博士（薬学）	薬理学※
兼担	**教授**	**俵口　奈穂美** **（57）** **＜令和２年４月＞** **博士（臨床薬学）**	**薬学への招待※**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	藤元　慎太郎 （31） ＜令和２年４月＞ 修士（文学）	心理学
兼任	講師	深山　孝文 （70） ＜令和２年４月＞ 文学士	文章表現論
兼任	講師	渡部　和隆 （32） ＜令和２年４月＞ 博士（文学）	倫理学 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ
兼任	講師	井上　久美子 （67） ＜令和２年９月＞ 教育学士	生命・医療倫理学
兼任	講師	吉川　三恵子 （71） ＜令和２年４月＞ 修士（教育学）	文学Ⅰ 文学Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	准教授	高村　雄策 （52） ＜令和２年９月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅱ
兼担	准教授	久保山　友晴 （42） ＜令和２年９月＞ 博士（薬学）	漢方・民間薬概論
兼任	講師	深山　孝文 （70） ＜令和２年４月＞ 文学士	文章表現論
兼任	講師	渡部　和隆 （32） ＜令和２年４月＞ 博士（文学）	倫理学 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ
兼任	講師	井上　久美子 （67） ＜令和２年９月＞ 教育学士	生命・医療倫理学
兼任	講師	吉川　三恵子 （71） ＜令和２年４月＞ 修士（教育学）	文学Ⅰ 文学Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	荒木　登茂子 （72） ＜令和３年４月＞ 文学修士	医療コミュニケーション学
兼任	講師	市東　亘 （47） ＜令和２年４月＞ 博士（経済学）	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ
兼任	講師	藤岡　豊三雄 （61） ＜令和２年４月＞ 工学修士	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	任　春江 （64） ＜令和２年４月＞ 応用言語学修士	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	田中　真理 （65） ＜令和２年４月＞ 修士（文学）	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	二ノ坂　保喜 （71） ＜令和４年４月＞ 医学士	ターミナルケア論（エンドオブライフケア論）
兼任	講師	三原　健吾 （32） ＜令和３年４月＞ 修士（臨床心理学）	臨床心理学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	荒木　登茂子 （71） ＜令和３年４月＞ 文学修士	医療コミュニケーション学
兼任	講師	市東　亘 （47） ＜令和２年４月＞ 博士（経済学）	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ
兼任	講師	藤岡　豊三雄 （61） ＜令和２年４月＞ 工学修士	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	任　春江 （64） ＜令和２年４月＞ 応用言語学修士	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	田中　真理 （65） ＜令和２年４月＞ 修士（文学）	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	二ノ坂　保喜 （69） ＜令和４年４月＞ 医学士	ターミナルケア論（エンドオブライフケア論）
兼任	講師	三原　健吾 （31） ＜令和３年４月＞ 修士（臨床心理学）	臨床心理学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	長谷川　伸子 （62） ＜令和２年９月＞ 経済学修士	ジェンダー論
兼任	講師	國府　新助 （70） ＜令和２年９月＞ 法学修士	日本国憲法
兼任	講師	蘭　和真 （59） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	スポーツⅠ
兼任	講師	瀧　豊樹 （59） ＜令和２年９月＞ 教育学修士	スポーツⅡ
兼任	講師	朴　先知 （36） ＜令和２年４月＞ 修士（学術）	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	寺坂　禮治 （71） ＜令和３年９月＞ 医学博士	臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者） ※
兼任	講師	河谷　はるみ （37） ＜令和２年４月＞ 博士（アドミニストレーション）	地域包括ケアシステム論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	長谷川　伸子 （61） ＜令和２年９月＞ 経済学修士	ジェンダー論
兼任	講師	國府　新助 （69） ＜令和２年９月＞ 法学修士	日本国憲法
兼任	講師	蘭　和真 （59） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	寺坂　禮治 （70） ＜令和３年９月＞ 医学博士	臨床医学論Ⅰ（成人・高齢者） ※
兼任	講師	河谷　はるみ （47） ＜令和２年４月＞ 博士（アドミニストレーション）	地域包括ケアシステム論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	永吉　守 （50） ＜令和３年４月＞ 博士（国際文化）	家族社会学
兼任	講師	福嶋　恒太郎 （56） ＜令和４年９月＞ 博士（医学）	助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※
兼任	講師	日高　庸博 （47） ＜令和３年９月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	矢幡　秀昭 （52） ＜令和３年９月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	加藤　聖子 （61） ＜令和３年９月＞ 医学博士	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	立石　和子 （56） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※
兼任	講師	中尾　久子 （64） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	永吉　守 （49） ＜令和３年４月＞ 博士（国際文化）	家族社会学
兼任	講師	福嶋　恒太郎 （53） ＜令和４年９月＞ 博士（医学）	助産診断・技術学Ⅱ（産科手術・救急助産）※
兼任	講師	日高　庸博 （46） ＜令和３年９月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	矢幡　秀昭 （50） ＜令和３年９月＞ 博士（医学）	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	加藤　聖子 （59） ＜令和３年９月＞ 医学博士	臨床医学論Ⅱ（小児・産婦人科・精神）※
兼任	講師	立石　和子 （56） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ ＊令和３年４月より、専任教員に就任予定
兼任	講師	中尾　久子 （64） ＜令和２年４月＞ 博士（医学）	看護倫理※ ＊令和３年４月より、専任教員に就任予定

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	濵田　裕子 （59） ＜令和２年４月＞ 博士（看護学）	看護倫理※
兼任	講師	宮﨑　初 （45） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	メンタルヘルス論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	濵田　裕子 （59） ＜令和２年４月＞ 博士（看護学）	看護倫理※ ＊令和３年４月より、専任教員に就任予定
兼任	講師	宮﨑　初 （45） ＜令和２年４月＞ 修士（看護学）	メンタルヘルス論※ ＊令和３年４月より、専任教員に就任予定
兼任	講師	谷口　雄紀 （26） ＜令和２年４月＞ 修士（心理学）	心理学
兼任	講師	井田　茂雄 （46） ＜令和２年４月＞ 修士（学術）	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	Suzy Connor （59） ＜令和２年４月＞ 博士（健康科学）	英語 英会話 医療英語
兼任	講師	岡本　靖子 （54） ＜令和２年４月＞ 看護専門学校卒	看護学概論※ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）※ 看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）※ 看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）※ スタディスキルセミナー 看護学研究Ⅰ※

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【令和２年度】

荒井教授就任辞退により、安藤教授に変更。令和元年11月AC教員審査済み。
権藤講師の学位取得により、保有学位等を「修士（看護学）」から「博士（看護学）」に変更。
村井講師就任辞退により、兼任教員の岡本講師に変更。令和３年４月からの採用を目指し、専任教員を公募している。
尾田助教就任辞退により、竹井助教に変更。令和２年１月AC教員審査済み。
西田助教就任辞退により、小川助教に変更。令和２年１月AC教員審査済み。
兼担教員の櫻田教授の都合により、兼担教員の髙村准教授が「形態機能学Ⅱ」を担当。
兼担教員の森内教授辞任により、兼任教員のConnor講師に変更。
兼担教員の飯塚教授辞任により、兼担教員の久保山准教授に変更。
兼担教員の増田教授辞任により、オムニバス講義「看護学生のための生物・化学」の各兼任教員担当講義回を変更。
オムニバス講義「薬学への招待」に兼担教員の俵口教授を追加。
兼担教員Epp准教授の都合により、兼任教員のConnor講師が「英会話」を担当。
兼任教員の藤元講師辞任により、兼任教員の谷口講師に変更。
兼任教員の瀧講師辞任により、兼任教員の蘭講師が「スポーツⅡ」を担当。
兼任教員の朴講師辞任により、兼任教員の井田講師に変更。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（２）ー①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

（注）・　大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（２）ー②　専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（A）	助手（A'）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（B）	助手（B'）
9	3	9	7	28	2	6	3	6	4	19	1
(6)	(3)	(6)	(4)	(19)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（C）	助手（C'）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（D）	助手（D'）
9	3	8	7	27	2	9	3	10	8	30	3
[－]	[－]	[△1]	[－]	[△1]	[－]	[－]	[－]	[1]	[1]	[2]	[1]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）ー③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
教授　65 その他　60 歳	8 名	11 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

（２）ー④　設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{28} = \boxed{96.42}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑤　現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{8}{19} = \boxed{42.1}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑥　設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{2}{2} = \boxed{100}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）ー①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	荒井　春生	R2.3	必修	看護倫理	①	H2.3　自己都合による就任辞退（２）
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	メンタルヘルス論	①	
				必修	精神看護援助論	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	国際看護学	①	
				必修	がん看護学	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	
				必修	看護学研究Ⅱ	①	
				必修	看護学研究Ⅲ	①	
2	講師	村井　孝子	R2.3	必修	看護学概論	②	R2.3　自己都合による就任辞退（２）
				必修	看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）	②	
				必修	看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）	②	
				必修	看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）	②	
				必修	看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）	③	
				必修	看護援助技術Ⅴ（看護過程）	③	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	③	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	③	
				必修	統合実習	③	
				必修	チーム医療	③	
				必修	総合看護学演習	③	
				必修	スタディスキルセミナー	②	
				必修	キャリアデザインセミナー	③	
				必修	看護学研究Ⅰ	②	
				必修	看護学研究Ⅱ	③	
				必修	看護学研究Ⅲ	③	
3	助教	尾田　登志子	R2.3	必修	看護学概論	①	R2.3　自己都合による就任辞退（２）
				必修	看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅲ（診断・治療に伴う援助技術）	①	
				必修	看護援助技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）	①	
				必修	看護援助技術Ⅴ（看護過程）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	
				必修	看護学研究Ⅰ	①	
				必修	看護学研究Ⅱ	①	
				必修	看護学研究Ⅲ	①	
4	助教	西田　志穂	R2.3	必修	看護学演習Ⅴ（看護過程）	①	R2.3　自己都合による就任辞退（２）
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	在宅看護援助論	①	
				必修	在宅看護論実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	総合看護学演習	①	
				必修	スタディスキルセミナー	①	
				必修	キャリアデザインセミナー	①	

合計（Ｄ）				後任補充状況の集計（Ｅ）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
4　人	必修	55	科目	必修	39 科目	必修	6 科目	必修	10 科目
	選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	55	科目	計	39 科目	計	6 科目	計	10 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）ー②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。

・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					

合計（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｇ）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・　一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③　上記（３）－①　・　（３）－②　の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
4　人	必修	55	科目	必修	39	科目	必修	6	科目	必修	10	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	55	科目	計	39	科目	計	6	科目	計	10	科目

（３）－④　設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{28} = \boxed{14.28}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）ー⑤　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				

合計				後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の就任辞退による学生への影響を最小限とするため、兼担や兼任ではなく、就任を辞退した教員と同領域を専門とする専任の教員を補充し、学生へのフォローが常時可能となる環境を作るよう努める。
また、設置申請時と比べて専任教員が不足している領域については、教員の募集を引き続きを行う予定である。

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （令和元年）	・「特待生チャレンジ入試」について、より具体的な制度設計を行うとともに、当該入試を経て入学した学生に対して期待する「スチューデントアシスタント（SA）、オープンキャンパス時の受験生への説明、フレッシュマンセミナー時の新入生指導等」の役割、「経済的支援（授業料半額免除）を保証する」旨は、あらかじめ募集要項等に明示すること。	遵守事項	令和２年度の学生募集要項や特待生チャレンジ入試専用のチラシに、特待生チャレンジ入試を経て入学した学生に期待する役割や経済的支援について明記した。	履行中	令和３年度以降の学生募集要項にも同様の記載を行う予定である。
認　可　時 （令和元年）	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項	完成年度以降の教員組織編制を見据え、専任教員年齢構成の適正化を図るため、助教又は講師など若手教員の募集を行っている。	履行中	今後の採用計画では、完成年度までに専任教員の数を30名まで増員する予定である。その際、定年延長をしている教員の割合を、現在の42.1%から30%台まで減少させるよう努める。
認　可　時 （令和元年）	・教員の補充を必要とされた１授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項	教員の補充が必要とされた「高齢者看護学実習Ⅰ」について、教員２名を補充済み。それぞれ令和元年11月および令和2年1月のAC教員審査で審査済みである。	履行済	

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜看護学部　看護学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①　施設・設備 ａ　事務室 ｂ　多目的フロア ｃ　応接室 ｄ　多目的便所 ｅ　女子便所 ｆ　男子便所 ｇ　男子更衣室 ｈ　保健師教室 ｉ　女子更衣室 ｊ　模擬病室 ｋ　洗濯室 ｌ　ロッカー室 ｍ　印刷室 ｎ　教員室 ｏ　学生相談室 ｐ　給湯室 ｑ　談話室 ｒ　倉庫	①　学生の修学環境および教職員の指導環境等を改善するため、女子更衣室を別棟に移動させ看護学部棟内の講義室等の配置を変更した。 本件については、指定学校の変更承認申請を提出し、既に承認を得ている。 （別添１「看護棟平面図」参照） （別添２「第一薬科大学看護学部看護学科の校舎の各室の用途及び面積を変更する理由等について」参照）

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

① 実施体制

ａ 委員会の設置状況

本学では、教職員総勢18名（看護学部教員3名含む）のファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を設置している。

ｂ 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年5月1日現在、FD委員会を開催していないものの、原則として月１回開催する予定である。

ｃ 委員会の審議事項等

・ＦＤに関する研修会及び講習会に関する事項
・「学生授業評価アンケート」に関する事項
・「教員相互授業参観」に関する事項
・「教員による自己評価」に関する事項
・「学生と教職員懇談」に関する事項

② 実施状況

ａ 実施内容

・ＦＤ委員会主催講習会
・教員相互の授業参観
・新任教員のための研修会
・学生と教職員懇談会の開催

ｂ 実施方法

・学内及び学部講師によるＦＤ委員会主催講習会を開催する予定。
・前期及び後期に教員相互の授業参観を実施する予定。
・前期及び後期における「学生授業評価アンケート」を実施する予定。
・前期及び後期に「学生と教職員懇談会」を実施する予定。

ｃ 開催状況（教員の参加状況含む）

・学年始めに新任教員対象研修を行う予定。
・前期及び後期の２回、授業終了時に「学生授業評価アンケート」を全科目において実施する予定。
・前期及び後期に教員相互の授業参観を実施期間を決めて実施する予定。
・「学生と教職員懇談会」は、あらかじめ大学に対する意見を聴取したことに対し回答する形で実施する予定。
※新型コロナウィルスの影響により今年度実施できていないため、当初予定していた内容を記載。

ｄ 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・「学生授業評価アンケート」及び「教員相互授業参観」の結果は、担当教員にフィードバックするとともに、「ＦＤ報告書」として全教職員に周知する予定。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

ａ 実施の有無及び実施時期

・原則として、前期・後期それぞれ期末に実施する予定。

ｂ 教員や学生への公開状況、方法等

・調査結果を各教員に通知する予定。

（注）・「①ａ 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

（4） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、学則第61条に基づき、教育研究水準の向上を図るため教育研究活動等の状況について自己点検及び評価を行うこととしている。今年度は、教職員総勢18名（看護学部教員3名含む）の自己点検・評価委員会を設置した。

令和2年5月1日現在、自己点検・評価委員会の開催はないものの、今後行っていく予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

検討中

b 公表方法

検討中

③ 認証評価を受ける計画

・本年度は予定なし

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和２年度）

a 公表予定の有無 〔 有 ・ 無 〕

≪ａで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 〔 調査結果公表後１ヶ月以内 ・ 公表後２～３ヶ月以内 ・ 公表後３ヶ月以降 〕

c 公表方法 〔 ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ） 〕

≪ａで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 〔 〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

別添１
【変更前】

看護棟平面図　1階（多目的フロアは福岡第一高校との共有）

看護棟平面図　2階（看護学部専有）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　3階（看護学部専有）

看護棟平面図　4階（看護学部専有）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　5階（看護学部専有）

看護棟平面図　6階（看護学部専有）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　7階（看護学部専有）

別添１
【変更後】

看護棟平面図　1階（多目的フロアは福岡第一高校との共用）

看護棟平面図　2階（看護学部専用）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　3階（看護学部専用）

看護棟平面図　4階（看護学部専用）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　5階（看護学部専用）

看護棟平面図　6階（看護学部専用）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

看護棟平面図　7階（看護学部専用）

福岡第一高等学校　けやき教室平面図　1階（看護学部専用）

福岡第一高校と共用

看護学部専用

別添２

第一薬科大学看護学部看護学科の校舎の各室の用途及び面積を変更する理由等について

１　変更事項

1．校舎の各室の用途及び面積の変更

２　変更年月日

令和２年４月１日

３　変更する理由

本学看護学部は、既存の建物を改修し、使用する予定である。

看護職に関する指定規則に従い、またアカデミックな大学教育が行えるよう、教室配置等工夫したものを平面図に起こし、設置申請及び指定申請時に提出した。

しかしながら、教員審査を通じて教員の入れ替わりがあるなかで、最終的に専任教員として就任が決まった者を集めて話し合いを重ね、学生の動線、自習スペース等を検証したところ、学生の定員に対して狭隘であるとの結論に至った。

１）現時点での課題や問題点

①事務室が奥まったところにあるため、入館者の確認がし辛く防犯上問題がある。

②エレベーターが狭く、ストレッチャーを使用した演習ができない。

③学生が普段使用するフロアの内、男子便所が１・２階にしか設置されていない。

④看護学部棟内に多目的便所がなく、けが人や障害者が使用できる便所がない。

⑤学生の待機場所、自習スペースが少ない。

⑥女子更衣室に定員数（320 名）分のロッカーを入れると、とても手狭になる。

⑦看護実習準備室内に洗濯機等が設置されており、湿気がこもり易く衛生的でない。

⑧助教及び常勤助手の使用する教務室は、人数に対し面積が狭い印象がある。

２）課題に対する自己評価

①入館者確認用の監視カメラを設置することとしていたが、早急な対応を必要とする場合には、監視カメラのみでは不十分と考える。

②エレベーターを使用したストレッチャー移動の演習を想定していなかったため、通常サイズのエレベーターで問題ないと考えていたが、想定が不十分であった。

③男子便所が偏在している感があり、男子学生に不便を強いることになる。

④バリアフリーの観点からも、けが人や障害者が利用できる便所がないことは避けなければならないと考える。

⑤学生の待機場所及び実習スペースとして既存の薬学部校舎を使用する予定であったが、看護学部棟との移動に５分ほどかかることや、雨天時などにおける学生の動きを考えた場合、看護学部棟内に待機場所及び実習スペースがないことは問題だと考える。

⑥近隣の看護系大学を基に、本学部定員数の内、女子学生の割合を 85％～90％と見積もっていたが、それ以上の女子学生が入学してきた場合には女子更衣室が手狭となる。

⑦リネン類の管理のし易さを基準にしていたため、看護実習準備室内に洗濯機等を設置することにしていたが、湿気がこもり易くカビの発生等が起こり得るため衛生面では問題だと考える。

⑧助教及び常勤助手の採用予定人数を元に必要となる面積を割り出していたが、個人のプライバシーなどを勘案した場合、手狭だと考える。

３）変更の必要性

①看護学部生のほとんどが女子学生だと思われるため、防犯の強化は必須である。そのため入館者の確認がしやすい位置に事務室を設置することが望ましいと考える。

②演習において、エレベーターを使用したストレッチャー移動の練習を行いたいとの要望があるため、大型のエレベーターを設置する必要性がある。

③講義等による使用頻度の高い２・３・４階の内、２階にしか男子便所が設置されておらず利便性に問題があるため、男子便所を追加する必要がある。

④看護学部棟１階には多目的フロアがあるなど、様々なイベントを当該施設にて行うことを想定した場合、多目的便所は必須であると考える。

⑤学生の自主学習を進めるためには、待機場所及び自習スペースを看護学部棟内に設置するなど、環境の整備は必要と考える。

⑥定員の全てが女子であった場合も想定し、その分のロッカーが設置できるだけのスペースを確保する必要がある。

⑦リネン類を含め物品を補完する場所として、湿気がこもり易い環境は不適切であり、別途洗濯機等を設置する場所を設ける必要がある。

⑧助教及び常勤助手にもプライバシーが守られる環境は必要であると考える。また、避難経路ともなる出入り口は、より多くを設置する必要がある。

４）期待される教育効果

①防犯カメラを設置した上、事務室を入館者の確認しやすい位置に移動させたことにより、学生の安全性をより確保できるため、安心して学生生活を送ることが可能となる。

②エレベーターを使用したストレッチャー移動の演習が行えることにより、より実践

に即した技術力を身に付けることが可能となる。
③奇数階に男子便所を設置することで、男子学生の利便性向上が可能となる。
④多目的便所があることで、本学で実施する様々なイベントに、より多彩な人を招くことが可能となり、学生にとって多様な経験を積むことができるようになる。
⑤看護学部棟内に待機場所及び自習スペースを設置することにより、学習環境の充実が図れ、学生の学力向上に効果があると考える。
⑥女子更衣室をより面積の広い場所に移設し、パウダールームやシャワールームを備えることで、学生の厚生面での充実を図ることが可能となる。
⑦衛生的な環境を作ることにより、演習等を安心して実施することが可能となる。
⑧プライバシーが守られる環境を作ることで、学生の教育だけではなく教員の研究もしやすくなると考える。

４　変更に伴い措置した事項

今回の変更点は、以下のとおりである。
また、「３　変更する理由」に挙げた項目を変更した結果、その影響で変更を余儀なくされた箇所についても以下に示す。

1）看護学部棟変更箇所及び変更内容

№.	変更区分	変更箇所	変更内容	変更理由
各フロア共通				
1	拡張	エレベーター	倉庫とエレベーターだった部分を一つにまとめ、容積の大きなものに変更した。	ストレッチャーを使用した演習が行えるよう、大型のエレベーターを設置した。
2	削除	（エレベーター横）倉庫	倉庫の設置を取り止めた。	大型のエレベーターを設置したことにより、元のエレベーター横には倉庫が設置できなくなった。 そのため、この倉庫は全フロア削除する。
3	拡張	エレベーター横のスペース	エレベーター横のスペースを拡張した。	学生の待機場所及び自習スペースが少ないため、エレベーター横のスペースを拡張し、テーブルやイスを配置した。

1 階				
4	縮小	多目的フロア	多目的フロアの面積を縮小した。	防犯等の理由により、入館者の確認がしやすい位置に事務室を移動させた。 その結果、多目的フロアの面積が縮小した。
5	移設 拡張	事務室	事務室の場所を移動し、面積を拡張した。 また、事務所のあった場所には応接室を設けた。	事務室を入館者が確認しやすい位置に移動させ、火災警報制御室の機能を持たせるため面積を拡張した。 また、入館者の対応は１階で一括して行うことにし、元の事務室設置場所に応接室を設けた。
6	削除	火災警報制御室	火災警報制御室をロッカー室に変更した。	火災警報制御機能を事務室に移したため、事務室内に設置予定だったロッカーを火災警報制御室に移動させた。
7	新設	ロッカー室	ロッカー室を設置した。	
8	新設	応接室	応接室を設置した。	外部との交流の場として、応接室を１階に設置した。
9	拡張	女子便所	女子便所の面積を拡張した。	このフロアの女子便所は使用頻度が高いことが予想されるため、面積を拡張し個室を増やした。
10	縮小	男子便所	男子便所の面積を縮小した。	多目的便所の設置および女子便所の面積拡張により、男子便所の面積を縮小した。
11	新設	多目的便所	多目的便所を設置した。	高齢者や障害者が利用しやすいよう、多目的便所を設置した。
2 階				
12	拡張	女子便所	女子便所の面積を拡張した。	男子便所を奇数階に設置することとしたため、2 階の女子便所を拡張した。

13	削除	男子便所	男子便所を２階から３階に移動した。	男子学生の利便性向上のため、男子便所を奇数階に設置することとした。そのため、2 階の男子便所の設置は取り止めた。
14	削除	男子更衣室	男子更衣室を 3 階に移動した。	このフロアの男子便所設置を取り止めたため、男子便所の設置されたフロアへ男子更衣室を移動させた。
15	移設	保健師教室	保健師教室を３階から２階に移動した。	学生の待機場所及び自習スペースを設置したため、保健師教室を２階に移設した。
3 階				
16	縮小	女子便所	2 つあった女子便所の内、面積が小さいほうを男子便所に変更した。	このフロアに男子便所を設置するため、女子便所を縮小した。
17	移設	男子便所	男子便所を２階から３階に移動した。	学生が普段使用するフロアの内、1・2 階にしか男子便所がなかったため、利便性を考え奇数階に男子便所を設置することとした。
18	削除	保健師教室	保健師教室を３階から２階に移動した。	学生の待機場所及び自習スペースを設置したため、保健師教室を２階に移設した。
19	移設	男子更衣室	男子更衣室を２階から３階に移動した。	男子便所設置フロアの変更により、3 階に男子更衣室を設置した。また、看護系大学の男女比（1：10）を参考に、更衣室の面積を変更した。
20	削除	女子更衣室	女子更衣室を倉庫に変更した。	女子更衣室が手狭であったため、移設することとした。

21	新設	倉庫	倉庫を設置した。	大型エレベーターを設置したことにより、建屋全体の倉庫面積が縮小した。女子更衣室を建屋外に移設したため、女子更衣室が在った場所を倉庫に変更した。
4 階				
22	削除	模擬病室	模擬病室の設置を取り止めた。	第1看護実習室に模擬病室を設置し、設備・備品を他と違うものにする予定であった。しかしながら、それによって得られるメリットよりもデメリットの方が大きいとの意見があり、学習効果を高めるため、模擬病室の設置を取り止め、全て同一規格品を設置した実習室にすることとした。
23	削除	女子便所	2 つあった女子便所の内、面積が小さいほうを洗濯室に変更した。	看護実習準備室から、洗濯機等、湿気のこもる原因となる水場を移設した。
24	新設	洗濯室	洗濯室を新たに設置した。	
25	縮小	看護実習準備室	看護実習準備室の面積を縮小した。	学生の待機場所及び自習スペースを設置したため、看護実習準備室の面積を縮小した。また、別途洗濯室を設けたため、当該準備室の面積を縮小しても収める物品の数に影響はない。
5 階				
26	縮小	女子便所	2 つあった女子便所の内、面積が小さいほうを男子便所に変更した。	奇数階に男子便所を設置することとしたため、2 つあった女子便所の内一つの設置を取り止めた。

27	新設	男子便所	男子便所を新たに設置した。	学生が普段使用するフロアの内、1・2 階にしか男子便所がなかったため、利便性を考え奇数階に男子便所を設置することとした。
28	縮小	管理室	管理室の面積を縮小した。	学生の待機場所確保のため、エレベーター横のスペースの面積を拡張し、管理室の面積を縮小した。
29	縮小	シミュレーションルーム	シミュレーションルームの面積を縮小した。	学生の待機場所確保のため、エレベーター横のスペースの面積を拡張し、シミュレーションルームの面積を、教育上問題のない範囲で縮小した。
6 階				
30	移設 拡張	教務室	位置を変更し、面積を拡張した。 また、教務室から教員室に名称を変更した。	教員のプライバシーを守るため、面積を拡張した。 また、有事の際の避難ルートを確保しやすくするため、部屋の位置を変更し、出入り口を増やした。
31	削除	会議室	会議室の設置を取り止めた。	会議室の設置を取りやめ、より機能性を向上させた談話室を設置した。
32	新設	ロッカー室	ロッカー室を設置した。	有事の際の避難ルートを確保しやすくするため、教員室の出入り口を増やした。 それにより、教員室内にロッカーを設置することが難しくなったため、別途ロッカー室を設置した。
33	新設	印刷室	印刷室を設置した。	教員室を使用する人数が増えたため、印刷機器を置くスペースが不足した。そのため別途印刷室を設置した。

34	新設	学生相談室	学生相談室を設置した。	相談学生のプライバシーに配慮した相談室がなかったため、新たに設置した。
35	移設 拡張	女子便所	女子便所の位置を変更し、拡張した。	女子便所の面積を広くするため、男子便所と女子便所の位置を入れ替えることとした。
36	削除	男子便所	男子便所の設置を取り止めた。	男子学生の利便性向上のため、男子便所を奇数階に設置することとした。そのため、2 階の男子便所の設置は取り止めた。
37	移設	＃11 教員室	＃11 教員室の位置を移動した。	談話室を設置するため、教員室の位置を移動した。
38	移設	＃12 教員室	＃12 教員室の位置を移動した。	
39	移設	＃13 教員室	＃13 教員室の位置を移動した。	
40	新設	倉庫	倉庫を新たに設置した。	物品の収納スペースが少なくなったため、女子便所の在った場所を倉庫に変更した。
7 階				
41	移設 拡張	女子便所	女子便所の位置を変更し、拡張した。	女子便所の面積を広くするため、男子便所と女子便所の位置を入れ替えることとした。
42	移設 縮小	男子便所	男子便所の位置を変更し、縮小した。	
43	拡張	学部長室	学部長室の面積を拡張した。	壁の位置が変わったことにより、学部長室の形状を変更し、面積を拡張させた。

福岡第一高等学校　けやき教室				
44	移設	女子更衣室	女子更衣室を隣接する建物に移設した。	女子更衣室が手狭であったため、移設することとした。移設先として、看護学部棟の建屋内に納めることができなかったため、隣接する福岡第一高等学校のけやき教室１階部分を看護学部専用スペースとして提供してもらうこととなった。 また、面積も以前の 1.8 倍以上の広さとし、シャワールームやパウダールームを併設させ学生の利便性を向上させた。

５　事務担当者

第一薬科大学　看護学部設置準備室　管田靖子
電　話　092-541-0161
ＦＡＸ　092-553-5698
E-Mail　y-kanda@daiichi-cps.ac.jp